

地域医療支援病院

小田原市立病院

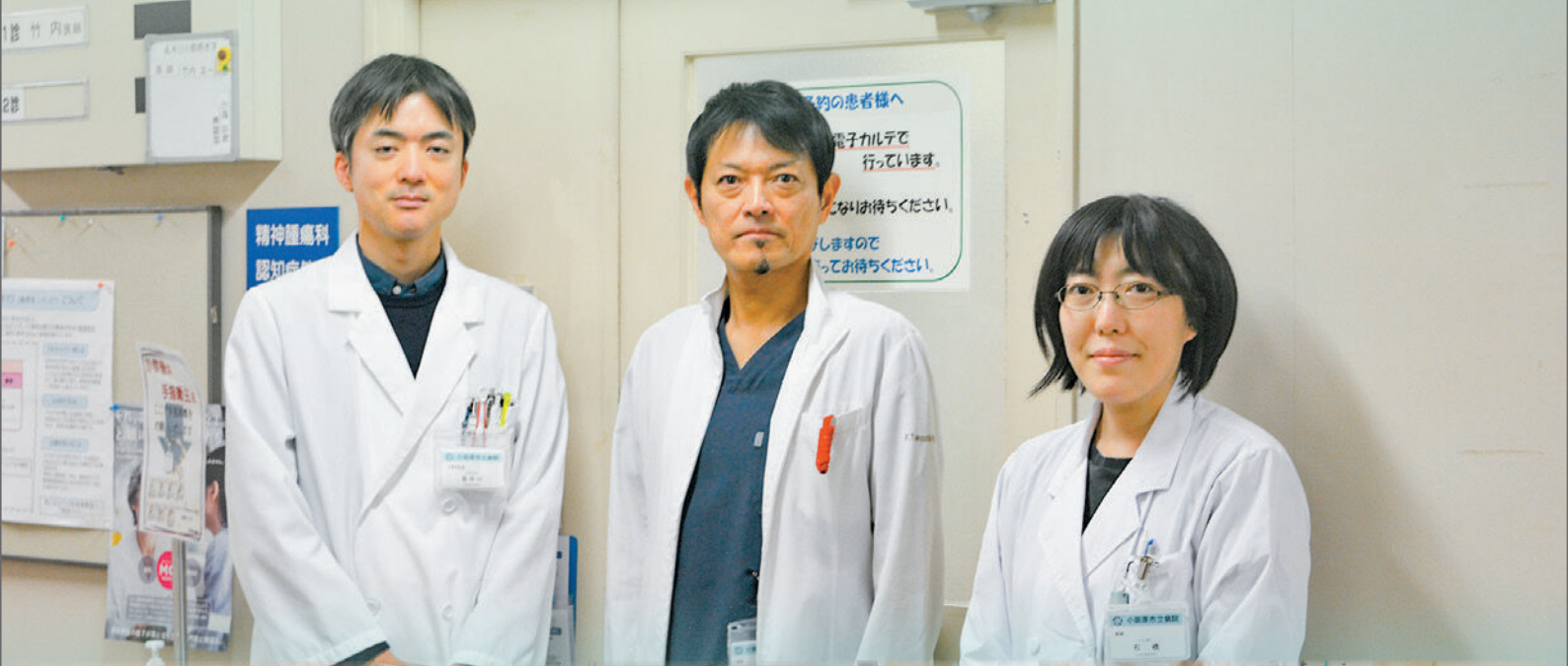
Odawara Municipal Hospital

広報誌

No.20
2025

エール

心身医療科
診察状況のお知らせ
記の番号の方までお呼びしております



②③ 心身医療科

④⑤ 手術に関わる薬剤師

⑥ がん個別化医療が始まりました

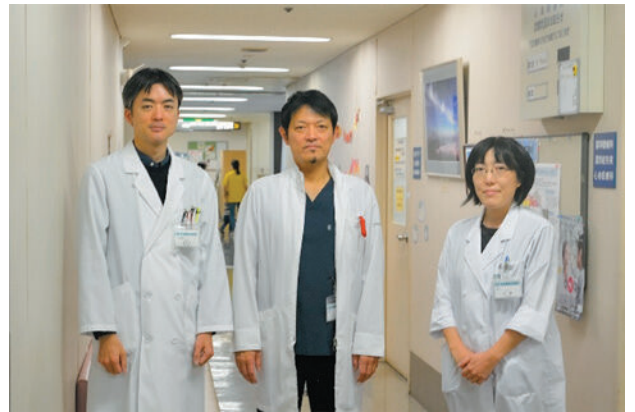
⑦ 地域周産期母子医療センターとしての安全な出産のための取り組み

⑧ 連携施設紹介

心身医療科

当科は、精神保健指定医 常勤2名、公認心理師 非常勤1名の体制で診療しており、コンサルテーション・リエゾンを基本とし、身体疾患の治療で当院に入院された患者さんに生じた精神症状に対して、精神科的治療の併診を行っております。

外来診療においては、《認知症》・《がんに関連する精神症状》・《女性の精神症状》を主な対象とし、必要に応じて心理カウンセリングも行います。併せて種々の《心理検査》も行っております。

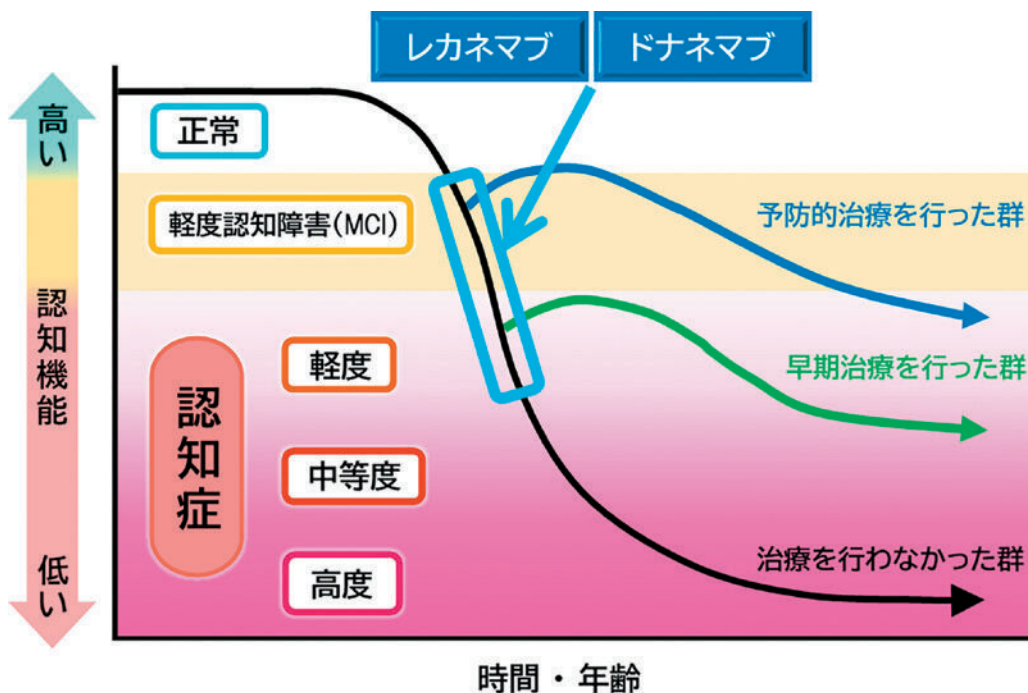


認知症

《認知症》とその前段階の《軽度認知障害》の方を合わせると、既に1000万人を超えているというのが我が国の状況です。その中でも最多と言われるのが《アルツハイマー型認知症》です。従来の治療薬が最後に世に出てから10年以上のときを待って、やっと新しい治療が承認されました。《アルツハイマー病》の原因となる蛋白質 ($A\beta$:アミロイドベータ) を溶かし出すという抗体薬で、現時点では最先端で効果の高い治療法とされています。治療対象となる方は限定されますが、認知症の診断がつくよりも前から治療を始められることも大きな特徴です。現在は認知症でないけれども、すでに“脳の中でこういった病気の変化が生じている”という方にとっては、今後の認知症の発症の予防が期待できます。もちろん認知症と診断された方も、軽度であればその進行を強く抑えることにつながります。薬は2種類で、レカネマブは2週ごと、ドナネマブは4週ごとの点滴治療で、当院でも体制を整えてこの治療を行っております。



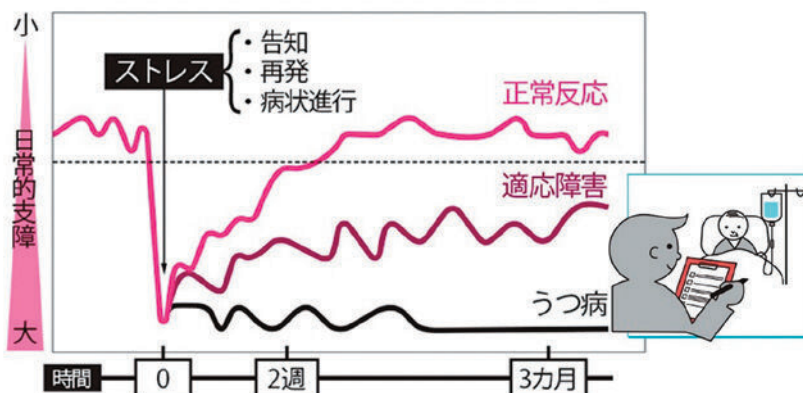
点滴治療機器は複数台用意しています



がんに関連する精神症状

がんの診断や治療の進歩は目覚ましく、一昔前の不治の病といった像は大きく払拭されています。それでもがんと診断され、手術や化学療法などの治療を受ける中で、不安が強まったり、混乱して考えられなくなったりといった反応が生じることは多く、その状態が長引く方もおられます。心の辛さがご家族におよぶこともまれではありません。当科では入院・通院を問わず、こういった精神症状に対する治療やケアを行っております。

がん患者さんに見られる心的傾向

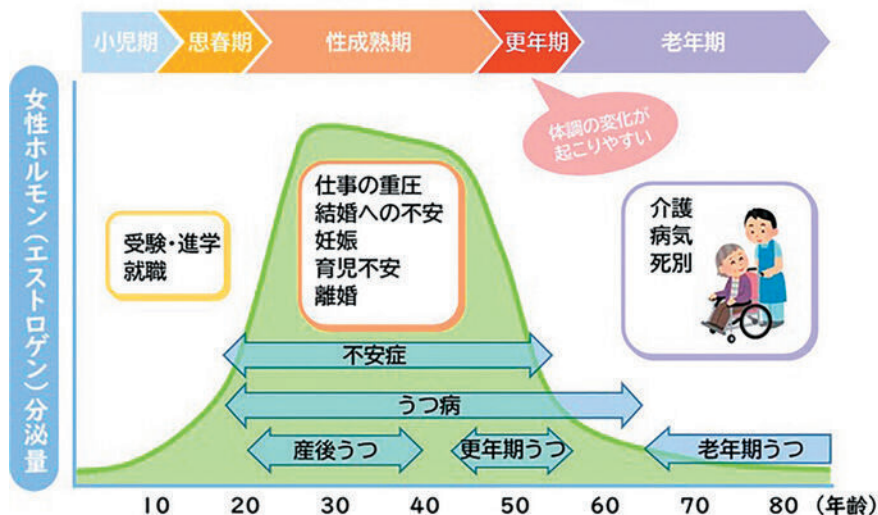


出典：日本サイコオンコロジー学会

女性の精神症状

妊娠中や出産前後の精神症状（気分の落ち込み・不安・不眠など）を抱える妊産婦さんに対し、周産期メンタルヘルスケアを担当しています。その他、家庭生活・仕事・介護・対人関係など、女性の方々がそれぞれのライフステージに応じて抱える精神症状についても、お一人お一人の状況に合わせて、薬物療法を行ったり生活上の工夫を提案したりしています。

主なストレス要因



心理検査

患者さんのことをより理解し的確な支援方針を検討するために、問診に加えて心理検査を実施することがあります。心理検査も、知能検査・発達検査・性格検査・病気に関する検査などに分けられ、状態や目的に応じてそれらを組み合わせて実施しています。

診療案内

外来日	月	火	水	木	金
午前中	○	○	○	○	○

TEL 0465-34-3175 (代表)

受診される場合は、事前予約が必要ですが、緊急の場合は電話でご連絡ください。外国人の方は、院内に医療通訳が不在のため、日本語がある程度理解できる方と一緒に受診をお願いします。



HPは
こちらから！

手術に関わる薬剤師

薬剤師のイメージというと、薬を調剤してお渡したり、入院したときに病室で薬剤師から薬の説明を受けたりする場面の印象が強いのではないのでしょうか。しかし、病院の薬剤師は薬に関わるあらゆる場面で皆さんのお手伝いをしています。今回は、その中でも手術に関連する薬剤師の業務をご紹介します。

周術期お薬スクリーニング外来の薬剤師

一部の手術や検査は、患者さんが血液をサラサラにする薬剤やサプリメント、あるいは逆に血液が固まりやすくなるような薬剤などを服用している場合には、手術の方法を変更したり、手術自体を中止・延期したりする必要が生じます。

そのため、手術を予定している場合は、服用しているすべての薬剤やサプリメントを把握して手術に関わるスタッフ間で情報を共有したり、事前に薬剤の服用を中断（休薬と言います）したりする必要があります。

そこで、周術期お薬スクリーニング外来の薬剤師は、手術が決定する段階で皆さんが服用している薬剤やサプリメントを確認し、休薬が必要な場合は、手術の何日前から休薬すべきかの情報を医師と共有しています。

医師は、その結果と手術の内容などを総合的に判断して、どの薬剤を休薬すべきかを決定しています。また、それ以外にも薬剤によるアレルギー歴などを確認させていただくことで、手術時に使用する予定の薬剤が安全に使用できるかの確認を行なっています。



入退院支援センターの薬剤師

入退院支援センターでは、医師により休薬が最終決定された後に、もう一度、薬剤師が面談をしております。薬剤師が複数回面談するため、手間に感じられる方もいらっしゃると思いますが、センターでは、休薬の最終確認をして「かかりつけの保険薬局（いわゆる調剤薬局）」に対して入院や休薬の情報を共有するための手紙を作成しています。

保険薬局は、この情報を基に、手術や検査までに安全に休薬ができるよう調剤上の工夫や休薬開始日の前日に電話で再度の注意喚起を行うなど、皆さんの手術や検査の安全な実施に向けて、保険薬局にご協力をお願いしています。また、入院中に使用する薬剤を持参しやすいように薬剤の整理や準備も行っています。



手術室の薬剤師

手術室にも専任の薬剤師が配置されており、手術中に使用する薬剤の管理や準備を行うほか、医療スタッフからの薬剤に関する様々な質問や相談に対応しています。

また、周術期お薬スクリーニング外来で患者さんから聞き取りをした薬剤の使用歴やアレルギー歴を麻酔科医などとカンファレンスをして共有しています。

さらに、手術中に薬剤の副作用やアレルギーが発現した場合は、その情報を病棟薬剤師などと共有しています。情報共有を行うことで、手術前から手術後まで薬剤を安全に使用できるように取り組んでいます。

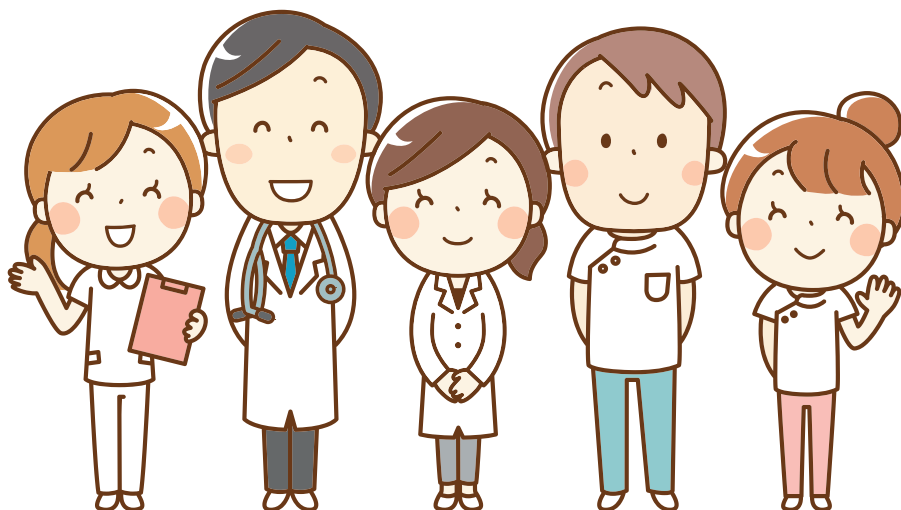


術後疼痛管理チームの薬剤師

手術後は多くの方が痛みを感じます。その痛みをコントロールして早い段階から離床することは、さまざまな合併症の予防や早期の回復につながると考えられています。

術後疼痛管理チームは、日本麻酔科学会主催の術後疼痛管理研修を修了した薬剤師が、麻酔科医師や手術室看護師とともにチーム医療として患者さんの手術後の痛みを軽減したり、合併症を予防したりするための活動を行っています。

現時点では、対象が手術後に集中治療室に入室された方などに限られていますが、今後はさらに拡大をしていく予定です。



がん個別化医療が始まりました

県西地区初 最先端のがん分子診断検査機器を導入

病理診断科に分子標的治療薬のコンパニオン診断を行うことができる、がん分子診断機器（ベンタナベンチマークウルトラプラス）を導入しました。コンパニオン診断（Companion diagnostics; CoDxも又はCDx）とは、医薬品の効果や副作用を投薬前に予測するために行なわれる臨床検査のことです。薬剤に対する患者個人の反応性を治療前に検査することで、個別化医療（又はオーダーメイド医療）を推進するために用いられています。具体的には、コンパニオン診断薬を使用し、患者さんの標的分子の発現量、関連遺伝子変異、遺伝子多型などのバイオマーカーなどを調べます。対象となる遺伝子の変化があるかどうかを確認したうえで、検討している薬剤の効果が期待できるかどうかを判断します。

コンパニオン診断薬等を用いる必要がある医薬品に関する情報

販売名	成分名	適応
アルンプリグ	ブリグチニブ	非小細胞肺癌
アレセンサ	アレクチニブ塩酸塩	非小細胞肺癌
エンハーツ	トラスツズマブデルクステカン（遺伝子組換え）	乳癌
キイトルーダ	ペムブロリズマブ（遺伝子組換え）	固形癌、結腸・直腸癌
ザーコリ	クリゾチニブ	非小細胞肺癌
ジカディア	セリチニブ	非小細胞肺癌
テセントリク	アテゾリズマブ（遺伝子組換え）	乳癌、非小細胞肺癌、非小細胞肺癌（術後補助療法）
ハーセプチン	トラスツズマブ（遺伝子組換え）	唾液腺癌
ビロイ	ゾルベツキシマブ（遺伝子組換え）	胃癌
フエスゴ	ペルツズマブ（遺伝子組換え） / トラスツズマブ（遺伝子組換え） / ボルヒアルロニダーゼアルファ（遺伝子組換え）	結腸・直腸癌

がん分子診断検査機器



ベンタナベンチマークウルトラプラス

この装置は、組織の中の様々なバイオマーカー等の発現を免疫組織化学的手法を用いて組織染色し、局在や発現状態を調べ治療薬の効果を判断するものです。全自動化されたこの装置を導入することで、従来に比べてコンパニオン診断に要する時間が大幅に短縮されます。

また、免疫組織化学染色のみならず遺伝子を乖離、結合し、特定の遺伝子の有無や変異した遺伝子の局在を示す*in situ* hybridizationという検査も行うことができます。

病理診断科は、最先端の遺伝子技術をもって皆さんのがん治療に貢献していきます。



地域周産期母子医療センターとしての 安全な出産のための取り組み

当院は、地域周産期母子医療センターに指定されており、妊娠28週以降、出生体重1,000gの分娩の母体児に周産期の高度な医療を提供できる医療施設です。

そして、安全な妊娠、出産を提供するために、次のような取り組みをしています。

- ①産科、小児科をはじめ、麻酔科、救急科、その他の関連科が連携して、母子の安全を見守っています。
- ②新生児集中治療室 (NICU) を備え、治療の必要な新生児に対して集約的な医療体制をとっています。
- ③糖尿病、心疾患などの内科的疾患を合併した妊婦さんに対して、各科の専門医と連携しています。
- ④日本母体救命システム普及協議会 (J-CIMELS) や新生児蘇生法普及事業 (NCPR) の講習会の定期的な開催と院内シミュレーション訓練を行っています。

定期的な講習会の開催

母子ともに、安全で健康に過ごせるのがいちばんの願いですが、実際の分娩ではお母さんの出血が多くなったり、分娩の途中で赤ちゃんの具合が悪くなる等、妊産婦さんやご家族が予測していないことが起こることがあります。日本では、2010年から2021年までの12年間で517人の妊産婦死亡が報告されています。母体死亡の原因の1位は、産科危機的出血 (18%)、2位は頭蓋内出血・梗塞 (14%)、3位は羊水塞栓 (10%) です。

そこで、日本産婦人科学会では、妊産婦死亡の更なる低下を目指してJ-CIMELSを設立して母体救命講習を開催し、日本周産期・新生児医学会では、新生児蘇生法委員会を組織し、新生児蘇生法を習得した医療スタッフが新生児の担当者として全ての分娩に立ち会うことができる体制の確立を目指してNCPRに取り組んでいます。当院でも、院内の医師、助産師、地域の救急救命士などの関係する職種のかたと定期的に講習会を開催して知識や技術の向上に努めています。



J-CIMELSの講習会

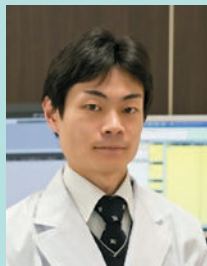
妊産婦死亡数の減少を目指し、あらゆる職種の医療関係者に標準的な母体救命法を普及させることを目的としています。



NCPRの講習会

出生時に新生児が呼吸循環が確立できない場合の新生児の蘇生法を学びます。また、救命・救急に対して、病院外で出生した新生児の蘇生法も講習しています。

鴨宮さとう内科クリニック (内科・糖尿病内科・内分泌内科)



佐藤 光一郎
院長

当院は南鴨宮にある診療所です。院長は開院前に小田原市立病院の糖尿病内分泌内科で勤務しておりました。急性期病院で治療を終えて診療所へ転医する患者様の多くが、転医後も専門医の診療を受けたいと考えておられたものの、小田原市内には糖尿病や内分泌の専門医が少なかったため、専門的なケアを受けることができる診療所を目指して2017年に開設しました。

当院では、管理栄養士による栄養相談やインスリンなどの注射治療の導入を外来で実施することができます。また、インスリンポンプや持続血糖測定など専門的な治療も実施しております。内分泌疾患では、パセドウ病や橋本病などの診断、治療や、甲状腺腫瘍に対する超音波検査も実施しております。

小田原市立病院には、精密検査、入院、外科的な処

置などが必要になった患者様の病診連携で大変お世話になっております。今後ともよろしくお願い申し上げます。



住 所：小田原市南鴨宮 2-3-4-10
電話番号：0465-46-0310
診療時間：9:00~12:00
14:00~17:00
土曜日 9:00~12:00
休 診 日：木曜日、日曜日、祝日

山田クリニック (外科・内科・泌尿器科・(皮膚科))



山田 洋介
院長

大学卒業後ここ小田原に辿り着くまで東京女子医大外科錬士、三井記念病院、聖マリアンナ医科大学、その関連病院、東横病院外科とさまざまな施設をさまよって参りましたが、ここ小田原では間中病院外科で学ばせて戴きました。その後沼津の透析関連の施設で腎不全の患者様のシャント手術、人工透析などに携わっておりました。

昭和58年に山田クリニックを開業し約40年間地域医療に携わって参りました。年令と共に在宅医療は限られた患者様のみになっておりますが、クリニックが若返れば、再び在宅医療にもしっかり貢献できる時が訪れることを夢んでいます。

病診連携は顔の見える関係が必須であり市立病院の地域医療連携室にはまさにそのような関係で各科の先生方との架け橋となっただき非常に有難く、助けて

戴いております。当院では科を問わず様々な患者様を見させて戴いていますが、それもバックアップがあってこそ出来ることであります。

これからも不安や、辛い思いで来院される患者様は出来るだけその思いにお答えして、また学びながら診療にあたりたいと思います。これからも、市民病院のイメージの市立病院として頼らせていただきたく思います。



住 所：小田原市板橋 86-3
診療時間：9:00~12:00、15:00~18:00
電話番号：0465-23-5522
休 診 日：木曜、土曜日午後、日曜日